

正義の行方

監督●木寺一孝 制作総括●東野直 撮影●澤中淳 音出●菅由 卜部忠 照明●藤守彦 音響効果●黒川智三 編集●遊辺敦男 制作協力●北條誠人 実行委員会●岩下宏之
特別協力●西日本新聞社 協力●NHKエンタープライズ テレビ版制作・著作●NHK 制作●テレビ朝日 製作●配給●東映 2025年1月18日 DCP●日本ドキュメンタリー

これは私たちの「羅生門」

死刑が執行されたいまも多くの謎につつまれた「飯塚事件」
〈真実〉と〈正義〉がぶつかりあう圧巻のドキュメンタリー

seiginoyukue.com

仙台弁護士会
「死刑を考える日」映画上映会

2025年 **1月18日**  **【予約不要・入場無料】**
せんだいメディアテーク 7階スタジオシアター 仙台市青葉区春日町2-1
上映開始時間：1回目 10:00～ 2回目 13:30～ (上映時間158分)

©NHK



市民のみなさまへ

仙台弁護士会は、死刑制度について市民の皆様にも少しでも関心をもってもらい、また共に考えたいと思い、毎年「死刑を考える日 映画上映会」を開催しており、今年で9回目となります。今回は、1992年に福岡県飯塚市で発生した飯塚事件を扱ったドキュメンタリー映画を上映いたします。この映画は、死刑制度のみならず、司法制度、裁判、それを報じるメディアについても深く考えさせられる内容となっております。みなさまのご来場をお待ちしております。

■ 作品解説（「正義の行方」公式WEBサイトより）

いまでも〈真相〉は、あの森を彷徨う 「飯塚事件」とは何だったのか？

1992年に福岡県飯塚市で2人の女兒が殺害された「飯塚事件」。DNA型鑑定などによって犯人とされた久間三千年（くまみちとし）は、2006年に最高裁で死刑が確定、2008年に福岡拘置所で刑死した。“異例の早さ”だった。翌年には冤罪を訴える再審請求が提起され、事件の余波はいまなお続いている。

本作は、弁護士、警察官、新聞記者という立場を異にする当事者たちが語る――

時に激しく対立する〈真実〉と〈正義〉を突き合わせながら事件の全体像を多面的に描き、やがてこの国の司法の姿を浮き彫りにしていく。

“オールドメディア”の存在意義をかけて 文化庁芸術祭大賞受賞の傑作ドキュメンタリー、 ついに映画化！

極めて痛ましく、しかも直接証拠が存在しない難事件の解決に執念を燃やし続けた福岡県警。久間の無実を信じ、“死刑執行後の再審請求”というこの上ない困難に挑み続ける弁護団。さらに、圧巻は事件発生当初からの自社の報道に疑問を持ち、事件を検証する調査報道を進めた西日本新聞社のジャーナリストたち。その姿勢は、マスメディアへの信頼が損なわれ、新聞やテレビなどの“オールドメディア”がビジネスモデルとしても急速に驕りを見せる今日、たしかな希望として私たちの心を捉える。

誰の〈真実〉が本当なのか？ 誰の〈正義〉が正しいのか？ スクリーンを見つめる私たちは、深く暗い迷宮のなかで、人が人を裁くことの重さ向き合うことになる。

2025年 **1月18日** **土**

せんだいメディアテーク 7階
スタジオシアター

〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1

上映開始時間▶ 1回目 10:00～ 2回目 13:30～

【予約不要・入場無料】